

# 平成28年度第5回岐阜県事業評価監視委員会

## 議事要旨

1. 日時：平成28年10月27日（木）9：30～12：00

2. 場所：岐阜県庁 7階 7北1会議室

3. 出席委員：岐阜大学 教授 総合情報メディアセンター 篠田 成郎  
岐阜工業高等専門学校 准教授 環境都市工学科 坂本 淳  
岐阜大学 教授 地域科学部 三井 栄  
岐阜県弁護士会 弁護士 福手 朋子  
岐阜県商工会女性部連合会 副会長 村瀬 眞理子  
一般財団法人 岐阜県地域女性団体協議会 理事 度会 さち子  
公募 浅野 勝博  
公募 名古屋大学 特任助教 大野 沙知子  
公募 会社員 前川 利枝

4. 議事要旨署名委員の指名について

職務代理者である副委員長が署名委員として度会委員、浅野委員、大野委員を指名。

5. 議事

再評価実施箇所の説明及び審議について

- ①道路事業：道路改築事業「（一）扶桑各務原線 新愛岐道路」〔県事業〕
- ②道路事業：道路改築事業「（一）羽島稻沢線 下中町工区(新濃尾大橋)」〔県事業〕
- ③道路事業：道路改築事業「（主）金山明宝線 畑佐・小川工区」〔県事業〕
- ④河川事業：広域河川改修事業「一級河川 長良川」〔県事業〕
- ⑤河川事業：広域河川改修事業「一級河川 津保川」〔県事業〕
- ⑥河川事業：広域河川改修事業「一級河川 宮川」〔県事業〕
- ⑦河川事業：総合流域防災事業「一級河川 苔川」〔県事業〕
- ⑧河川事業：広域河川改修事業「一級河川 飛驒川」〔県事業〕

6. 議事要旨

再評価実施箇所の説明及び審議について

- ①道路事業〔事業主体：岐阜県〕
  - ・審議事業：道路改築事業「（一）扶桑各務原線 新愛岐道路」
  - ・説明者：道路建設課 熊谷課長

### 【審議】

浅野委員

本事業において、愛知県との費用負担、施設の維持管理の考え方を説明して下さい。

説明者（熊谷課長）

橋梁の建設費用については過去の経緯から、愛知県6、岐阜県4という割合と

しています。取り付け道路などは、それぞれの県で実施しています。維持管理についてですが、一般的には橋梁を架設した側が管理をすることになり、費用負担については、今後の協議により決めていくこととなります。

坂本委員

交通量推計の条件ですが、配分交通量をQ-V式と転換率式を併用して推計していますが、現在はこの手法しかないのですか。

説明者（熊谷課長）

交通量推計につきましては、国土交通省のマニュアルに沿って算定しており、交通流の推計にはいくつかの手法が示されております。県では、この併用による配分手法が適しているので採用しています。

坂本委員

交通流を推計する際の道路ネットワークのゾーニングの基準はあるのですか。

説明者（熊谷課長）

国土交通省より配布されるOD表により設定しています。

浅野委員

道路整備後に推計した交通流の検証は行っていますか。

説明者（熊谷課長）

開通後に交通量調査は行っていますが、評価時に行った推計では周辺の路網条件が異なりますので、検証は行っていません。

## 【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

### ②道路事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：道路改築事業「（一）羽島稲沢線 下中町工区(新濃尾大橋)」
- ・説明者：道路建設課 熊谷課長

## 【審議】

前川委員

新濃尾大橋の下流部に渡船場があるとのことですが、橋梁完成後はどうなるのですか。

説明者（熊谷課長）

事業完了後は、現在の県道は羽島市、一宮市に移管することとなります。渡船場の存続については、地域の方々の意見等を踏まえ、周辺自治体が判断することになると思います。

浅野委員

先の事業の新愛岐道路に比べ新濃尾大橋の事業費が大きいのは、橋梁の下部工の構造の違いによるものですか。

説明者（熊谷課長）

その通りです。新愛岐大橋と比較して、新濃尾大橋の橋脚のケーソン基礎工は深いことから、橋梁部の事業費が大きくなっています。

篠田委員

自然環境への配慮の説明の中で、イタセンパラの「追い出し」と書いてありますが、「移植」との違いを教えてください。

説明者（熊谷課長）

イタセンパラは生息域が限られており、産卵床となる二枚貝とセットで生息しています。環境影響検討委員において、捕獲して移植するのは好ましくないと意見をいただきましたので、工事箇所周辺に仕切りを設置し、避難させて完了後は元の場所に戻すという方法を「追い出し」と表現しています。

篠田委員

一時的に生息域からの移動を促したということですか。

説明者（熊谷課長）

そうです。

## 【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

### ③道路事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：道路改築事業「（主）金山明宝線 畑佐・小川工区」
- ・説明者：道路建設課 熊谷課長

## 【審議】

坂本委員

費用対効果(B/C)が前回の再評価時と同様に1.1で、平成17年時の道路センサスをもとに算定されていると思います。山間部に整備する道路などは、交通量の減少により費用対効果(B/C)が1.0を下回る事業が今後出てくるのではないかと考えております。県として、費用対効果(B/C)が1.0を下回った場合の事業の取り扱いについてどのように考えているのですか。費用対効果の結果だけで、事業継続を判断する全てではありませんが、説明資料の流から数値に目が向いてしまいますので、何か別に事業の必要性を訴えるものがあってもいいと思います。

説明者（熊谷課長）

コスト縮減や工期短縮を図ることにより費用対効果の向上に努めてまいります。また、費用対効果(B/C)の結果だけで評価するのではなく、地域や関係者と意見交換をし、事業継続について検討することが必要と考えています。

篠田委員

この議論は、昨年度もありましたが、事業評価監視委員会では費用対効果が1.0以上なら事業継続していく、1.0を下回ったなら事業を見直すという画一的な判断をする場ではなく、その内容について審議する場です。費用対効果分析の結果は、事業を評価する重要な指標の一つですが、さまざまな面から総合的に事業継続の是非を判断することが必要です。

福手委員

高齢化と過疎化が進行している地区と説明がありました。地区内には小学校がありますが、統廃合の具体的な問題は出てきているのでしょうか。この路線は、将来、小学校が統合された場合にスクールバスが安全に通行するための重要な道路となると思います。

説明者（熊谷課長）

小学校の統廃合については、具体的な話はありませんが、中学生、高校生は市街地の学校へスクールバスで通学しています。

浅野委員

コスト縮減の説明で、トンネルズリを他へ流用するという説明がありました。過去、この地域周辺でのトンネル掘削工事で、発生したズリからヒ素が検出されたと記憶していますが、このトンネルズリで環境基準を上回るヒ素が含まれる場合は流用ができなくなるのではないのでしょうか。

説明者（熊谷課長）

同路線の畑佐工区の改良工事の盛土材として流用しています。ヒ素に関しては周辺環境に影響しないよう封じ込める対策を講じています。

篠田委員

この路線により、郡上市和良地区へのアクセスが向上します。小川、和良地区とも林業が盛んな地域です。明宝地域内にある温泉施設は木質バイオマス

ボイラーを導入しており、燃料となる原木については、地域内から調達しています。今回は、この路線による木材輸送経費等の便益を見込んでいませんが、新たな便益の評価等についても検討できると思います。

#### 【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

#### ④河川事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・ 審議事業：広域河川改修事業「一級河川 長良川」
- ・ 説明者：河川課 三戸課長

#### 【審議】

浅野委員

築堤や河道拡幅は困難なので、河床掘削が主な整備内容になると思いますが、一般的に河床掘削はどのぐらいの期間効果が期待できますか。一度、大きな洪水が起こると土砂が堆積して元に戻ってしまうのではないですか。

説明者（三戸課長）

定期的に河道の変化の状況を見ながら、土砂が堆積した場合は、維持管理の中で必要に応じて堆積土砂の撤去を行っています。

篠田委員

費用対効果の算出について、資産データの見直しなどがあったとのことですが、総便益を算出するにあたり、事業計画規模でなく、将来計画規模で行う理由を説明してください。

説明者（三戸課長）

長良川は、現在1/20年で整備していますが、例えば1/30年の洪水があった場合でも、事業による被害軽減効果があります。今回からは、国などの実施方法に沿って、将来計画規模まで氾濫シミュレーションを実施し、費用対効果を算出しています。

#### 【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

#### ⑤河川事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・ 審議事業：広域河川改修事業「一級河川 津保川」
- ・ 説明者：河川課 三戸課長

#### 【審議】

篠田委員

社会経済情勢等の変化の説明の中で、工業団地が完成するなど流域内の開発が進んでいるとのことですが、大きい施設ですので貯留効果が期待できると思います。岐阜市では、学校の校庭に雨水を一時的に貯留できるよう対策を行っていますが、県として、このような大規模施設に対して、貯留施設等を設けてもらう取り組みを実施していますか。

説明者（三戸課長）

大規模な開発の場合は、岐阜県宅地開発指導要綱等に基づき、貯留施設を設置いただいています。校庭貯留や民間の流域対策は、岐阜市などで実施している流域もありますが、関係者の理解も必要となりますので、長良川流域では、実施していません。

篠田委員

貯留施設の効果を河川計画に反映しているのですか。

説明者（三戸課長）

貯留施設の効果そのものを河川計画には反映させていませんが、大規模な開発の場合でも、貯留施設を整備することにより、流出率が大きく変化することはありません。

浅野委員

津保川にも霞堤があると思いますが、浸水被害を受ける農地などに対する補償をしていますか。

説明者（三戸課長）

浸水した農地等への補償は行っていません。岐阜県には、霞堤や輪中堤などの伝統的防災施設があり、地域では水害対策の重要な施設であるとの理解もあります。

#### 【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

#### ⑥河川事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：広域河川改修事業「一級河川 宮川」
- ・説明者：河川課 三戸課長

#### 【審議】

坂本委員

社会経済情勢等の変化の説明の中で、人口は減少傾向にあると説明がありましたが、周辺道路の整備が進み、アクセスが向上したことにより、観光客が増加したことをアピールした方がよいと思います。

度会委員

近年では平成26年に浸水被害が発生しています。現在の進捗率は54%ですが、当時の進捗率はどのくらいでしたか。事業が進捗すれば、同程度の雨量による浸水被害は解消されるのでしょうか。

説明者（三戸課長）

進捗率は、平成26年と大きくは変わってはいません。河川事業は、事業期間や延長が長く、短期間で大きな進捗は見込めませんが、計画的に事業を進めています。同程度の雨量により、浸水被害が解消するかどうかについては、雨量以外に雨の降り方により流量が変わるため、一概には言えませんが、平成26年洪水は、計画規模である1/30年程度の雨量であったため、浸水被害は軽減すると思われま。

篠田委員

他の河川事業も環境への配慮で、改修前のみお筋と変化をつけないようにスライドダウン掘削を行っていますが、これだけ事業期間が長いと、実際には、みお筋や瀬は変化してしまうと思いますが、どのように考えていますか。

説明者（三戸課長）

事業は長期に渡りますので、大きな出水や洪水があると川の流れが変わる場合があります。よって、経過観察し、地域の方々の意見も伺いながら、事業を進めています。

#### 【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

⑦河川事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：総合流域防災事業「一級河川 苔川」
- ・説明者：河川課 三戸課長

【審議】

篠田委員

環境への配慮で、置き石等によりみお筋を創出することで、水際植生が回復しつつありますが、水生生物は改修前後で変化がありましたか。表紙写真で、子供たちがタモをもって生き物調査を行っているのが紹介されていますが。

説明者（三戸課長）

苔川においては、市街地を流れる河川で貴重種等が生息していないため、改修前後の水生生物のモニタリング調査は行っておりません。写真は小学校の総合学習で実施した生き物調査です。

篠田委員

総合学習等を活用して、改修前後の生物調査を行い、比較するのもよいと思います。

大野委員

費用対効果の数字が前回の再評価時より下がった理由は何ですか。

説明者（三戸課長）

事業区間には多くの橋梁があります。詳細設計を実施した結果、当初よりも架け替えのために多くの費用が必要となり、事業費が増加したことが主な要因です。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

⑧河川事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：広域河川改修事業「一級河川 飛騨川」
- ・説明者：河川課 三戸課長

【審議】

篠田委員

この地域は、江戸時代から水害が繰り返し発生し、道が寸断するなどの被害が発生しています。平成11年も洪水により多くの護岸が被災しましたが、その後、工法等の見直しなどは行われましたか。

説明者（三戸課長）

護岸が被害を受けたのは、護岸の基礎部分が洗掘され、護岸の裏の土砂が吸い出されたのが主な要因のため、基礎の根入れを深くしたりするなどの対策を実施しています。また、定期的に点検を行い、適切な維持管理を実施しています。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。